咲き乱れる花ショウブ

6月14日、15日の2日間、岐阜県百年公園において「菖蒲(しょうぶ)まつり」が開かれ、多くの見物客が訪れました。中濃地区最大の広さを誇る園内のショウブ園には、約100種類2万株の色とりどりの花ショウブが満開を迎え、カメラに収める人やスケッチをする人の姿も見られました。まつりでは、ステージショーや体験コーナーも設けられ、家族連れなど大勢の人でにぎわいました。

あんな事、こんな事

ふるさとの川を知ろう

6月15日、小屋名の津保川で川の生き物を調査する自然観察会が行われ、地元の子どもたちや保護者など約100人が参加しました。網を手にしてワンドと呼ばれる川の淵に入り、川底をすくったり茂みを探ったりして、アブラボチ、オイカワ、鮎などの魚やヤゴなどを捕まえました。配られた資料と見比べたり岐阜県博物館の学芸員に聞いたりして、捕まえた生き物の種類や名前を調べる作業を行いました。

自らを守る術を学ぼう

旭ヶ丘小学校とPTAが合同で「自分を大切にするための授業」と題してセルフディフェンス講習会を開き、生徒128人と保護者約30人が参加し、不審者の対策について学びました。講習では講師が身振り手振りで不審者への対応を説明し、もし寄ってきたら「警察呼んでください」と大声で叫ぶなど、具体的なアドバイスをし、子どもたちは真剣な表情で学びました。

水難事故には十分注意を

キャンプなどの川遊びシーズンを間近に控え、中濃消防組合関消防署、関警察署、県警航空隊が、6月11日に池尻の長良川で水難救助合同訓練を開催しました。例年、長良川、板取川などへは涼を求めてたくさんの人が訪れますが、残念な水難事故が多発しています。今年も事故を想定して、ボート3艇、ヘリコプター1機、潜水士9人が連携を確認しながら真剣に訓練を行いました。

大規模な災害に備え提携

6月12日、関工業団地協同組合（新迫間）と関市との間で「災害時における応急対策支援活動等の協力に関する協定」を締結しました。これは、災害時に行政と企業が協力し、迅速に支援や復興に当たるために、避難所として敷地の開放や、物資や資機材の提供などを決めたものです。地域と企業、そして行政が手を組み、いざというときに備えることが、安全・安心なまちづくりにつながります。

初夏の香漂う　武儀の里

6月8日、道の駅平成の「ふれあいドーム」で「むぎササユリまつり」が行われ、ドームの中はササユリの香りが漂いました。独特の香りとうつむきかげんに可憐で美しく咲く姿が印象的なササユリは、旧武儀町の花として指定され親しまれてきました。近年、乱獲や自然環境の変化などで減少していますが、地域の皆さんの努力により今年もたくさんの株が美しい花を咲かせ、祭りに訪れた人を癒やしていました。

郷土に伝わる伝統の音色

博愛小学校の4年生が総合的な学習の時間で、武芸川町の八幡神社の祭り囃子を習うために、自分たちで横笛を作りました。八幡神社は春の「花馬まつり」が有名で、祭礼には神楽が奉納され、そのお囃子を八幡神楽保存会の皆さんから、10年ほど前から毎年習っています。昨年からは自分だけのオリジナル横笛作りも始まり、子どもたちは熱心に笛作りに取り掛かり、約4時間かけて完成させました。

こぼれ話

小学校1・2年生を対象として行われた、セルフディフェンス（自己防衛）講習会を取材して、いま時の子どもたちが1人では道草もできない社会の中で育っていることに、1人の大人として責任を感じずにはいられませんでした。

講演で子どもたちは、「不審者は普通の格好で優しく寄って来るよ。声を掛けられたらキッパリ断るんだよ」、「背の高さや服の色などの特徴を、何でもいいから1つ憶えておくんだよ」「1人で帰る時は、速歩きで」などと教えてもらいました。「不審者の状況は日々変化しており、親の育った頃とは大きく変わり、男女に関係なく対象とされることがある」と講師は親にも訴えました。

学校へ通う子どもがいないと、こうした現実に関心が低くなりますが、1人の社会人、地域人として、「見守り」や「あいさつ」などできることを始めたいものです。全ての市民が一丸となれば、関市の子どもたちは安心して外で遊べるでしょう。